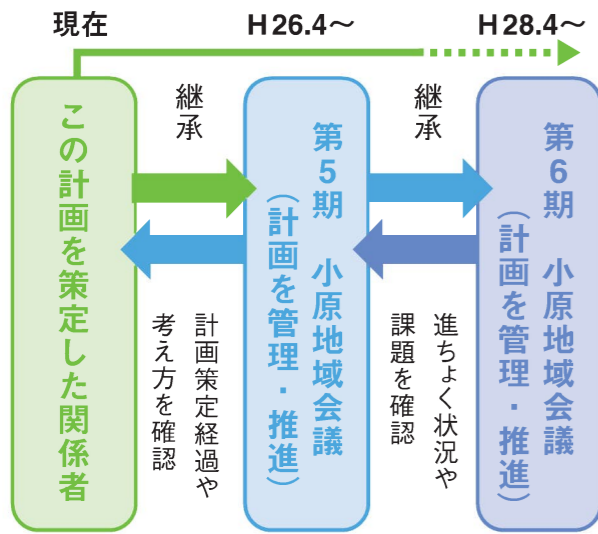


8 計画の推進体制



- 小原地域会議が計画の進ちよく状況を管理していきます。また、うまく進んでいない事業は、地域住民や関係団体に取組を促していきます。
- なお、直前の関係者に経過や課題を確認し、計画の考え方やポイントを継承していきます。



計画は
どうやって見守って
いくの？

～まとめの一言～

- この計画は、平成24年度から平成25年度の2年にわたり、約30回の会議を重ねて、「未来の小原のために私たちがすべきこと」を検討してきました。
- 人口減少など厳しい社会環境もありますが、私たちは、この美しい里山を子どもたちの世代に引き継ぎ、将来にわたって持続可能なまちづくりを行っていく必要があります。
- 私たちの地域「小原」には自信をもつべき地域資源がたくさんあります。美しい自然、歴史ある文化、そして、優しく誠実なひとの心。これらの地域の宝を活かしていくことが、地域の元気を生み出していきます。
- 地域の未来は、今ここに住む私たち地域住民が行動してこそ、切り拓いていくことができます。みんなで力をあわせて、未来への一步を踏み出しましょう。

小原地域会議・小原地区まちづくり協議会 委員一同

豊田市小原地区まちづくり計画「おはらみらいプラン」概要版

[平成 26年2月発行]

計画策定：小原地域会議 素案協議：小原地区まちづくり協議会 編集：豊田市役所小原支所
〒470-0592 愛知県豊田市小原町上平441-1 TEL 0565-65-2001 FAX 0565-65-3695
Eメール：obara-shisho@city.toyota.aichi.jp

あなたが“未来の小原のために”できること

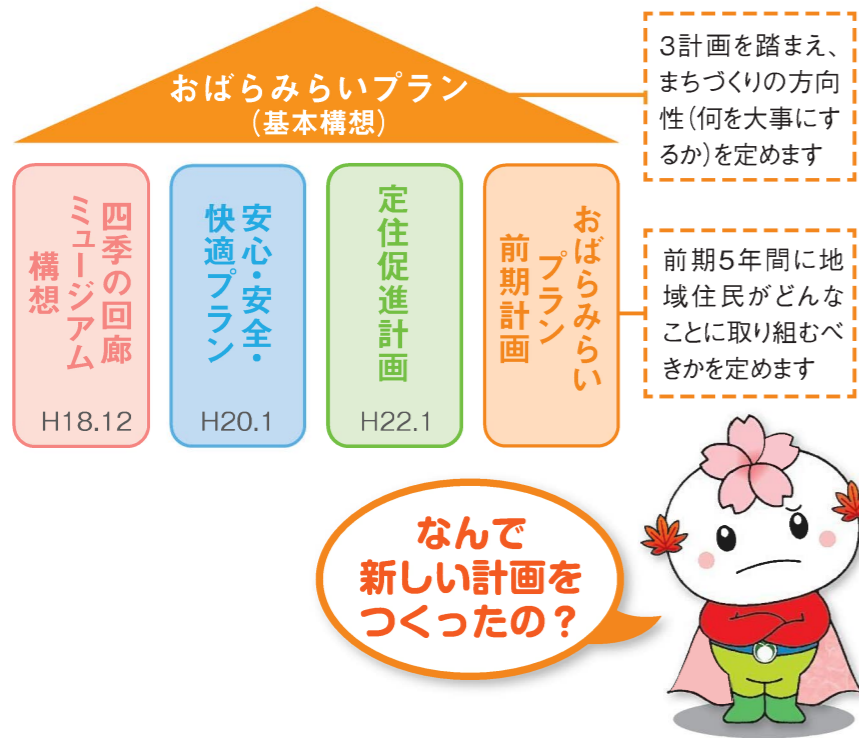


おはら
みらいプラン

みんなの和で 元気な暮らし
未来につなぐ 里山おはら
～踏み出そう みんなの力で～



1 計画策定の趣旨



小原地区には3つの地域計画(①四季の回廊ミュージアム構想、②安心・安全・快適プラン、③定住促進計画)がありましたが、住民参加が高まっていないことや市の財政悪化もあり、すべてが順調に進んでいるとは言えない状況でした。

また、個別分野の計画しかなかったことから、“地域全体の将来ビジョン”を明確にし、地域課題に的確に対応していく必要がありました。

そこで、「まちづくりの方向性」を定めることを目的に、10年先を見通した「基本構想」と、5年間の行動計画をまとめた「前期計画」を策定しました。

2 計画策定の主体

この計画は、小原の地域住民が、地域住民として自ら取り組むべき内容を定めたものです



計画策定の主体は、地域住民の代表者で構成されている「小原地域会議」です。

計画の素案については、地域住民や地域団体の関係者も参加した「小原地区まちづくり協議会」が検討し、その検討結果を小原地域会議に報告しました。最終的には小原地域会議が計画を決定したものです。

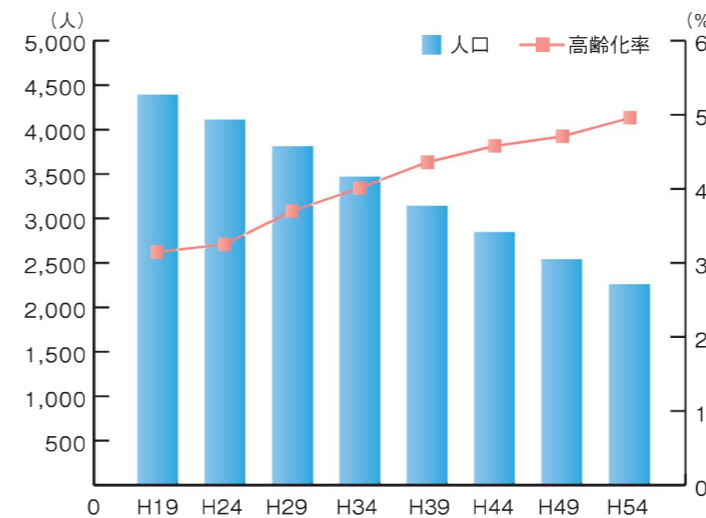
よって、「地域住民が地域のために策定した計画」となります。まず、このことをしっかり理解することが重要です。

3 現状分析と将来推計

小原はどんな状況なの?

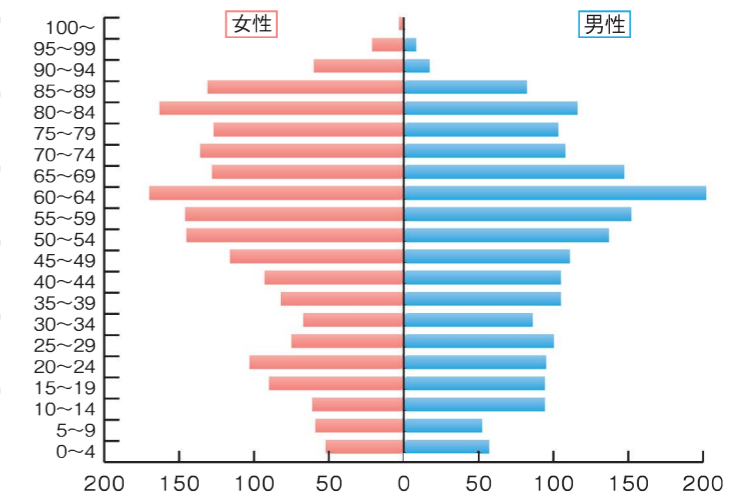


人口と高齢化率



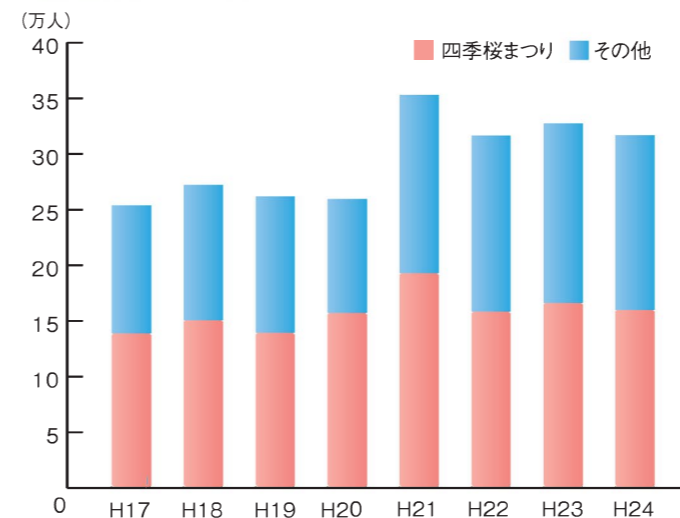
平成19年から平成24年までの傾向を基に推計すると、30年後(平成54年)の人口は約45%減少が見込まれます。また、30年後の高齢化率も約50%にまで上昇すると予想されます。これらの人口減少等への対策について、地域全体で考えていく必要があります。

年齢別人口



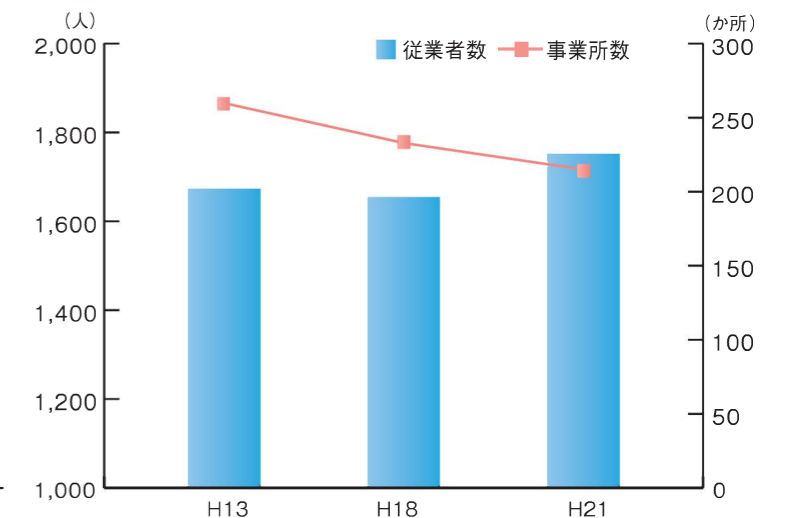
年齢別人口を見ると、概ね逆ひょうたん型となっており、少子高齢化が進行している様子が確認できます。10歳未満はその他の年代と比べて特に少ない状況であり、学校運営の問題や将来の地域の担い手不足が懸念されます。

観光入込客数



観光入込客数は、平成17年からの横ばい傾向から平成21年に大幅に増加しました。これは、四季桜が新聞等のメディアに取り上げられ多くの反響があったことが要因です。その後はやや減少したものの、再び横ばい傾向となっています。

事業所数・従業者数



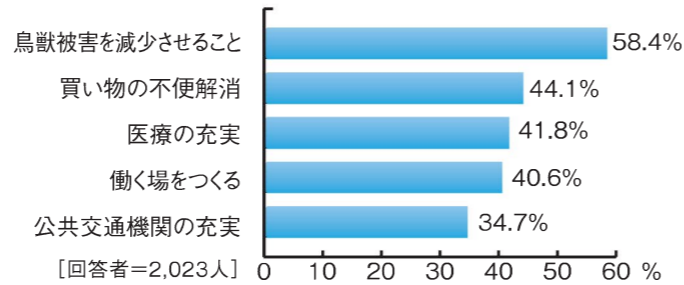
従業者数は平成21年に増加が見られます。これは、空き地利用による新規事業所の進出などが影響しているものと考えられます。ただし、事業所数の減少傾向からは、小規模事業所をはじめとして厳しい経営環境であることがうかがえます。

4 アンケート結果

小原地区の課題・問題点は？

※複数回答可

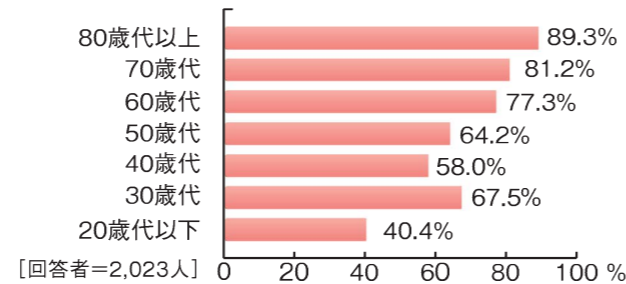
回答者の6割以上が農地を保有しており、「鳥獣被害を減少させること」が1位。ただし、20歳以下の1位は「公共交通」、30歳代の1位は「子育て支援」、40歳代の1位は「買い物の不便解消」であり、年代による意見の違いが見られます。



これからも住み続けたいか？

※「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」をあわせた回答率

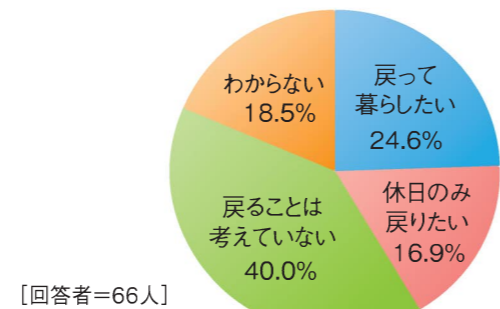
若い年代ほど定住志向が低い傾向です。なお、30歳代は比較的定住志向が高くなっています。



将来、小原地区に戻って暮らしたいと考えているか？

※18～40歳の転出者への質問

約25%の転出者が「戻って暮らしたい」と回答しており、Uターン促進に関する取組の強化が必要と考えられます。



5 計画づくりに必要な視点



計画づくりのポイントは？

- ① 少子高齢化・人口減少に対応するため、**定住促進**に関して住民主体でできることをよく考える必要があります。また、**若者が住みたくなる地域**にするためには、**子育て環境**の充実も検討が必要です。
- ② **農地や水環境を大切に**して、暮らし環境を守っていくとともに、今後は小規模高齢化集落が増えていくことから、**お互いが支えあう地域社会づくり**を進める必要があります。
- ③ 地域社会の活力を高めるためには、**地域資源の魅力**を磨き、**観光交流を促進**させることが重要です。なお、**情報発信**の方法や**地域資源を連携**させるなど、様々な工夫をしていくことが必要です。



6 おはら未来プランの骨子

まちづくりの基本理念

みんなの和で 元気な暮らし 未来につなぐ 里山おはら

自然や文化が豊かで、心温かい人が暮らす小原地域が、子どもたちが大人になった時代も元気でるように、地域住民みんなが協力して、まちづくりに取り組みましょう。

計画の全体像



※2019～2023年の後期計画は、前期計画の進捗よく状況を踏まえて検討します。



7 前期計画事業の概要

将来像	地域課題	計画事業
地域ひとづくり	定住促進	地域担い手創出・U&I推進事業 主体:Uターン促進実行委員会ほか 地域への愛着を呼び起こすイベントや通信の発行、空き家等の発掘を推進する
		おばら郷土愛育み事業 主体:わくわく事業団体ほか 子どもや若者が地域の文化等に触れる機会を増やし、地域への愛着を育む
	まちづくり リーダー育成	みんなでまちづくり運動推進事業 主体:小原地域会議 各種団体の活動状況を発信し、まちづくりの人材(リーダー)を育てる
	子育て・子育て	子どもの遊び場創出事業 主体:わくわく事業団体ほか 入園前の幼児等が気軽に集まる遊び場づくりを推進し、子育て環境を向上させる
子ども教育環境検討事業 主体:小原地域会議 住民の幅広い意見を聴きながら、今後の教育環境のあり方を検討する		

将来像	地域課題	計画事業
豊かな暮らし環境づくり	地域支えあい (地域力)	集落もやい活動推進事業 主体:もやい活動グループ 小規模高齢化集落を地域全体で支えるため、集落間の交流等を促進する
	耕作放棄地の 解消	おばら米ブランド化チャレンジ事業 主体:地域農業従事者 小原産のお米の品質を立証し、若い農業従事者の確保や農業振興を図る
	暮らしの豊かさの 認知度アップ	おばら豊かさ再発見事業 主体:わくわく事業団体ほか 都市にはない小原暮らしの豊かさを明確にし、情報共有と環境保全を図る
	高齢者の 健康づくり	みんなで運動習慣普及事業 主体:健康づくり団体 高齢化に対応した運動習慣を広め、元気な地域社会づくりを推進する
	水環境の 保全	矢作川水源・環境保全事業 主体:自治区その他地域団体 小原が重要な水源地であることを学び、不法投棄対策や森林の間伐を推進する

将来像	地域課題	計画事業
魅力ある地域づくり	観光交流の 促進	戦略的観光PR・イメージアップ事業 主体:小原観光協会 ターゲットを絞った観光PRを展開し、交流促進とイメージアップを図る
		四季桜愛護活動強化事業 主体:小原四季桜愛護会 四季桜の管理手法を確立するとともに、持続的な愛護体制を構築する
		四季桜まつり魅力向上事業 主体:小原四季桜まつり実行委員会 第20回まつり(H28)を目標に、イベント内容等の魅力アップを図る
	産業振興	地域資源コラボ型観光商品開発事業 主体:観光関連事業者 多様な地域資源が連携した商品開発を推進し、観光産業の活性化を図る
和紙文化の 振興	和紙工芸プロモーション事業 主体:和紙のふるさと運営協議会ほか 大学と連携した商品開発や施設利活用を研究し、和紙の魅力を発信する	



計画事業を
しっかり
理解しましょう

～「地域課題」ってなに?～
地域の課題はたくさんありますが、ここに記載しているものは、10年後の小原を考えた時に、「特に重要でその他よりも優先して対策を考えるべきもの」です。

～地域住民はどうすればいいの?～
計画事業には想定される主体を書いています、「任せておけば大丈夫」ということではありません。みなさん一人ひとりが計画事業に参加・協力することが「未来の小原のために」必要です。

～どうやって計画を進めるの?～
計画の「地域課題」に対応した事業であれば、「わくわく事業補助金※」での優遇が受けられます。また、事業内容によっては、地域予算提案事業の活用も検討していきます。

※その他の市補助金等を活用している事業は、わくわく事業補助金を利用できません。詳しくは市小原支所でご確認ください。

「地域会議」

地域住民が主体となって、地域それぞれの課題にどう対応していくかを検討する会議です。主な役割は、わくわく事業の審査、地域予算提案事業の検討、市長からの諮問事項に関する審議・答申です。

- 委員:20人以内
- 任期:2年(連続3期は不可)
- 設置:中学校区単位

「わくわく事業」

地域の様々な資源を活用して、地域課題の解決や地域の活性化に取り組む地域団体を支援する制度です。応募団体の申請内容を地域会議が審査し、その結果を踏まえて市が助成します。

- 予算:500万円/地域会議
- 要件:構成員が5人以上 ほか
- 備考:活動内容や対象経費の審査有

「地域予算提案事業」

地域課題を解決するために必要な事業の経費を、市の予算に反映させる制度です。地域会議が事業内容を検討し、提案します。地域と行政が役割分担し、共働で取り組むことを基本としています。

- 予算:2,000万円/地域会議
- 要件:市に権限のないもの等は対象外
- 備考:提案には地域の合意形成が必要

小原地区マスコットキャラクター「おばらっきー」

地域を元気にするために誕生したマスコットキャラクターで、平成24年11月3日から活動を開始。名前は「おばら」と「ラッキー(幸福・好運)」を組み合わせました。また、顔は地域特産のたまごで四季桜を乗せており、耳は紅葉したもみじ、マントは小原和紙をイメージしています。

